

KOBE YMCA NEWS



神戸青年 No.647

2016.11・12 Nov・Dec

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/井上 真二 編集人/田村 光
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL <http://www.kobeymca.org> 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA
年間聖句

「平和な人には未来がある」
(詩篇37編37節)

神戸YMCA三宮会館 オープンに向けて 「キャンピング サービスセンター」



新しい神戸YMCA三宮会館における「キャンピングサービスセンター」の役割の中心は、神戸YMCAが持つ唯一のキャンプ場である余島野外活動センターの運営です。

「余島」は、1949年に今井鎮雄氏によって見つけられ、1950年に「戦後における民主主義教育の実現」という使命を果たすために、この余島でキャンプを開始しました。1977年には余島野外活動センターを開設し、様々な年代のグループや家族、そしてすべての人に開かれた「島」として活動を継続してきました。

「余島」は、小豆島鹿島沖1kmに位置する、周囲2.2kmの無人島です。干潮時には瀬が出現し、小豆島本島と陸続きになります。敷地面積約3万坪、標高差約50mの島内には、手付かずの自然が数多く残っており、夏と春には多くの子どもたち、そしてユースリーダーたちを中心に、さまざまなキャンプが行われています。

「余島」を歴史的に振り返ってみても、1953年「長期少年キャンプ(11泊・朝日新聞社後援)」や「肢体不自由児キャンプ(朝日厚生文化事業団、神戸、姫路ライオンズクラブ後援)」、1962年「体育の嫌いな子ども達のためのキャンプ」など、野外教育・キャンプという世界で先駆的な取り組みがなされて、業界に果たす役割や貢献度は大きなものであります。



そして、1995年の阪神淡路大震が発生した折には、復興支援キャンプを行いました。その後、2004年豊岡淡路水害復興支援キャンプ、2009年台風9号被災地復興支援キャンプ、2011年東日本復興支援キャンプを行い、たくさん子ども達をうけ入れてきました。

昨年、余島キャンプは開設65年目を迎えました。

「人と出会い、神と交わり、愛の火の燃えるところ」として、「子ども、若者のいのちを育むこと(For Youth Development)」「人々の健全な営み、衣・食・住(For Healthy Living)」「社会に貢献すること(For Social Responsibility)」を大切にまもりながら、運営をしています。

2014年9月に、神戸YMCAファミリーウエルネスセンターが開設され、それまで神戸YMCAウエルネスセンター三宮で運営していた幼少年事業の持ち方が変わりました。この「キャンピングサービスセンター」は、余島野外活動センターおよびキャンプ場の運営、三宮ランチキャンプ、野外活動(デイキャンプ)、三宮リーダー会、加えて神戸YMCA全体の野外・キャンプ事業のとりまとめを担当する部署とし活動を進めてきました。余島キャンプをフラッグシップとして、神戸YMCAの野外・キャンプ事業を引っ張っていく役割を今後も担っていきます。

東京オリンピックが開催される2020年には、日本YMCAキャンプ100周年、余島キャンプ70周年を迎えます。多様な個性や価値観が、豊かな自然の中で、共に生きることを喜びとする人を育てていくことを社会において果たすべき責任として捉え、神戸YMCA三宮会館の他部署、そして地域社会、他団体や学校とつながりの中での責任を果たしていきます。



余島野外活動センターHP : <http://www.kobeymca.org/yoshima/center/>
余島キャンプHP : <http://www.kobeymca.org/yoshima/camp/>
Facebook : YMCA Camp Yoshima

新会館 工事進捗状況

10月7日(金)上棟式が行われました。11Fまでの基本工事が終了し、これからは内装工事が中心になってきます。各内部の工事では、YMCA側の教室やチャペル、生活科学側の居室や介護室等が、具体的に見えるようになってきました。新会館の竣工まで、後半年。これからの工事も順調にすすめることを祈ります。



神戸YMCAシアトルYMCA ユースエクスチェンジ交流50周年記念ツアー



1966年にスタートした神戸YMCAとシアトルYMCAのユースエクスチェンジの歴史が今年50周年を迎え、5月の神戸での来日記念プログラム、シアトルでのハンドベルクワイアー公演、8月の中高生交換プログラムに続き、今回は9月に神戸YMCAから井上総主事はじめ11名の訪問団がシアトルを訪れました。

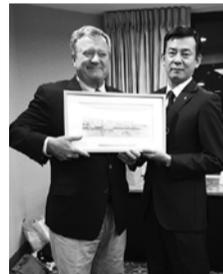


記念レセプションでは、両YMCAの交流の歴史に関わってこられた多くのボランティア、スタッフ、メンバーが一堂に会し、共に今までの歩みに感謝することができました。その中で、関わった方々から、それぞれの異文化交流がその後の人生を大きく変える体験であったことが語られ、改めてこのユースエクスチェンジ、スタッフエクスチェンジで蒔かれた種が50年間の間に大きな実を結んでいることを再確認しました。今までの世代の方々が続いでこられたように、お互いの文化を認め合い、お互いを思いやる歴史は、次の世代へと更に引き継がれ、両YMCAの友情の架け橋が更に未来へと太く強くなり続いていくことでしょう。

記念レセプションの翌日にはシアトル・神戸姉妹都市協会主催のジャズナイトにも参加させていただきましたが、ここでも両市の交流の歴史と両YMCAの歴史が相互に関係していることが確認できる豊かな夜でした(来年はシアトル・神戸姉妹都市交流60周年です)。

ツアー中には様々なオプションが企画され、ダウントウンYサービスクラブと神戸ポートワイズメンズクラブのIBC(インターナショナルブラザーズクラブ)の交流会、110年目のCamp Orkilaを訪問したり、ウエストシアトルYMCAの新しい会館工事現場を見学することができました(ウエストシアトルYMCAはファミリー世代への会館として、1月から新会館での活動がスタートします)。

今回のツアーの為に多くの準備をくださったシアトルYMCAのスタッフの皆様、また両YMCAの歴史に関わってくださっている多くの皆様のお支えに心から感謝します。



「第47回 全国YMCAリーダー研修会」

10月8日～10日まで、神戸YMCA余島野外活動センターにて、第47回全国リーダー研修会が開催されました。全国の24のYMCAからリーダー87名、スタッフ12名、実行委員15名、そしてゲスト合わせ、約130名が余島にて研修会を行いました。



今回のテーマは、「Because of『あの体験があったから今の私がある』」と題して、「体験」に焦点を当て進めていきました。

研修会初日、全国の仲間と出会った参加者たちはグループごとに、余島の中に設置されたASE(Action Socialization Experience)にチャレンジしました。この自分たちのASE体験から、「体験」を取り扱うこの研修の土台を確認しました。

2日目、日本キャンプ協会林健児郎氏、小児科医栗原康通氏、小学校校長山本義和氏の3名のゲストスピーカーより、人生に影響した体験をお聴きしました。そしてゲストスピーカーそれぞれのお話しをもとに、「人生に影響する体験とは?」何かを分析し、そして「人生に影響する体験をつくる」ことにチャレンジをしました。

最終日は各グループのプログラムを発表することとし、2日目の夜からは、それぞれのグループで、長い長い話し合いが続きました。



これまでの自分たちのリーダー活動の中でのプログラムを振り返りながら、より精度の高いYMCAプログラムを生み出すために、社会の課題を見つけ、それに向き合い、自分たちに何ができるか?を夜を徹して、考え、話し合い、それぞれのグループで一つのプログラムを生み出しました。この姿は、これからのYMCAのあるべき姿を映し出す尊い姿でもありました。

参加リーダーたちは、今回の研修会において、「ただ、経験として楽しかった…」ということではなく、YMCAが社会に対する責任として行うプログラムをどう生み出すか、へのチャレンジがとても重要であり、これからも続けていかなければいけないことを理解して下さったかと思ひますし、そうして進んで下さることを信じております。

最後に、今回の研修会の実施におきまして、お支えいただいたゲストスピーカー、ワイズメンズクラブ六甲部、日本YMCA同盟、全国のYMCAの皆さまに心より感謝いたします。



「学校法人の1・2歳児が交流しました!!」

～ 幼稚園 ～



神戸YMCAちとせ幼稚園の「さくらんぼ組」は、週に2～3日登録した曜日に子どもたちが登園する2歳児クラスです。そんな子どもたちが9月12日(月)、13日(火)に幼稚園バスに乗ってYMCAちとせ保育ルーム(小規模保育事業)に遊びに行きました。今まで、幼稚園周辺をぐるりと散歩することはあっても、バスに乗って出かけるのは初めてのこと。

ワクワクした気持ちでバスに乗り込み、あっという間に到着! 靴を脱いで、保育ルームのお友だちが楽しそうに遊んでいるところへ、すぐさま参加! 初めて訪れる場所にも関わらず、ままと、電車、パズル、絵本...と、それぞれが遊びたい玩具のところに駆け寄り、すぐに遊び始める姿は、先生たちが驚くほどでした。慌てて、子どもたちの後について、遊びたい気持ちのお手伝い。そして保育ルームの子どもたちはというと、普段は1,2歳児14人で過ごしているところに、突然お友だちが18人と先生が5人も増えて(それも2日間)、少し圧倒されている感もありましたが、「これはこうやるんだよ」と遊び方を見せてくれたり、「どうぞ」と玩具を貸してくれたりと歓迎ムードでした。遊んだ後は、改めて皆で顔を合わせ「動物体操」や「手遊び」を一緒にして楽しい交流の時を持ちました。保育ルームでの1・2歳児の交流は初めてでしたが、その後の9月17日には幼稚園の運動会で再会!一緒に「電車でゴーゴー」のプログラムに参加しました。学校法人の1・2歳児の交流を通して、子どもも先生も互いに良い刺激が与えられ嬉しく思いました。



保育園

毎年10月に実施する運動会では4・5歳児がバラバルーンを行います。今年のテーマは『恐竜』。子どもたちは恐竜になりきったり、バラバルーンを用いて恐竜の足跡や卵、火山、花、巨大な恐竜を表現します。恐竜好きな子がいたことから決定したこのテーマ。保育園の恐竜博士は恐竜の図鑑を見て大盛り上がり!「白亜紀にはな…」と熱く語る様子に少しずつ周りの子どもたちも興味を示すようになりました。「この恐竜って3メートルもあるなんて。3メートルってどれぐらいなん?」「○○くんより大きい?」「じゃあ、身長測るやつで調べようや」と恐竜の大きさや特徴を捉えイメージを膨らませ表現に繋げていきました。恐竜の足音では太鼓に合わせてみんなでジャンプ!鳴き声の場面では声を合わせて「ギャオー!!」友だちと目を合わせ、思わず笑みがこぼれる子どもたち。皆で心と力を合わせて表現する楽しさを味わい、ラストは「どうだ」と言わんばかりの自信満々の表情で巨大恐竜を作り上げることができました。



～ 地域とのつながり ～

～ 学童保育 ～

西宮ランチで運営を行っている育成センターでは2ヶ月に1度、図書ボランティアによる絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。今年度も、地域で活動されているグループの方々が、各センターに2名ずつ(浜脇では1日に6人)来てくださっています。学校から帰ってワイワイ賑やかだった子ども達も、お話し会が始まるとボランティアの方々の声に静かに耳を傾け、ドキドキワクワクした様子でお話の世界に引き込まれていきます。ボランティアの方々との交流を通して、子ども達は心温まる時間を過ごすことができました。



また、運動会の代休日には「500円でお買い物」を行いました。これは、子ども達が地域のスーパーで、その日の昼食やおやつを自分達で選んで購入するという取り組みで、1年生と2・3年生がペアになって買い物へ出かけました。地域の方々と交流することで、学校外でも子ども達が挨拶をしたり、地域の方々が声をかけてくださったりという顔の見える関係性を築くことができました。

こうした地域との関係性の強化は育成センターに集う子ども達の「生活の安心・安全」につながっています。これからは育成センターが地域にひらかれた場所となり、子どもたちが地域で生き生きと過ごしていくことができるよう見守っていきたいと思います。



コミュニティサービスセンター

＜神戸市立 須磨体育館＞



神戸市立須磨体育館は、JR須磨海浜公園駅から徒歩7分程度の場所にある指定管理施設の一つです。

須磨体育館では施設管理業務以外にも体育館主催の自主事業を行っています。大人を対象としたスポーツ教室は、「卓球教室」「バドミントン教室」「女性のエクササイズ&スポーツ教室」

などを実施しています。また、子ども対象のスポーツ教室は、YMCAのスタッフが中心となり「体育が得意になる教室」「ミニバスケットボール教室」「キッズダンス教室」などが行われています。定期的な教室は季節ごと(春季、秋季、冬季)の実施となり、限られた回数の中ですが、子ども達もリーダーたちも全力で駆け抜けています。

それ以外にも、スポーツ振興などを目的としたプログラムや、市民救命士講習などの無料イベントも実施しています。他の施設の中では珍しく大きなトランポリンを使った親子で取りくむ教室も開催しています。

活動は体育館だけにとどまらず、須磨・長田地域を中心とした近隣の保育園、小学校や地域のスポーツクラブなどから体育指導の依頼を頂いています。その対象は大人、子ども問わず、年間10件以上の出張指導等をさせて頂いています。

スポーツを通して多くの笑顔が生まれ、様々な方とつながるきっかけになれるように、地域に根差した必要とされる体育館、YMCAでなければと感じています。

永年にわたってYMCA運動発展に貢献された会員・職員の表彰が行われました。神戸YMCAの関係者は以下のとおりです。(敬称略) 第19回 日本YMCA大会にて表彰されました。

【50年継続会員賞】村山 盛嗣、井上 耕作

【25年継続会員賞】浅野 武彦、安積 規郎、有岡 孝司、井口 良子、石田 謙一、市原 正幸、井上 一美、井上 隆生、梅津 香代、遠藤 宏子、大橋 妙子、岡 百合子、岡崎 祐子、岡本 佑吉、小野 英子、小野 里佳、桂川 保男、蒲田 五十男、神田 千代子、神原 聖子、久保 武司、久保 光子、黒田 範子、小山 秀夫、齋木 基、財家 和幸、阪本 伸彦、佐々木 照子、佐竹 真美、春藤 桂子、白石 千津栄、杉山 秀光、宗和 正文、田中 晋一郎、田中 康秀、富依 俊之、長井 慎吾、中井 由美子、中尾 幸子、中野 かつお、長島 トヨ子、榎林 平、濱田 稔史、西尾 道、西山 卓司、西山 富治、二宮 正、二宮 美由紀、野口 勝美、橋爪 宏之、橋本 寛、長谷川 勇、濱田 信敏、久内 節子、藤本 新作、藤本 秀幸、前田 邦子、前田 慎吾、松井 多美子、的場 健、三浦 爽、宮出 真理、宮森 公友、森 紘一、森垣 駿、柳生 成世、安室 憲一、山崎 伸子

【25年勤続者賞】功力 正士、俵 万理子、権藤 みか、小澤 昌平

【青少年奉仕賞】山口 政紀、館 忠之

★★ 個人消息 ★★

＜お誕生＞おめでとうございます。

7月24日
原田泰志さん<西宮ランチ>
長男 原田琉生(るい)くん

10月4日
本山哲也さん<西神戸ランチ>
長女、涼楓(すずか)さん

感謝・寄付

新会館建築募金

(前号掲載以降～9/30現在)

■ 感謝をもってご報告します。(敬称略、順不同)
■ 有田 征彦、橋本 正晴・和子、宗行 孝之介、矢野 弘樹、小野 勲祐、丸谷 佳孝、藤田 裕、藤田 有規子、齊藤 靖、原 寛、近藤 道夫、近藤 妙子、藤田 友真・和真・真彩、川原 真、星野 昌枝、(株)みなと銀行本店営業部、匿名の方1名

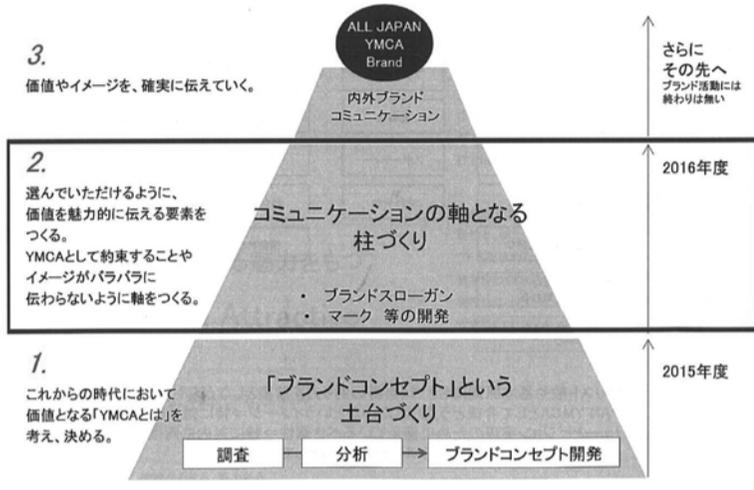
熊本地震 緊急支援募金

神戸YMCAでは日本のYMCAと協力し、熊本地震緊急支援として募金の呼びかけを行いました。神戸YMCAに皆様から寄せられた募金3,237,043円(4月16日～8月31日)です。皆様に心から感謝申し上げます。日本YMCA同盟では第2期熊本地震支援募金(7月1日～2017年4月30日)を行っています。引き続き皆様の尊いご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「ブランディング」への取り組み No.2

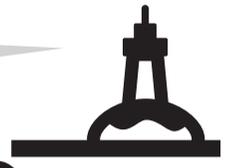
「ブランディング」とは…ブランドという言葉は世間でも聞き慣れています。が、「ブランディング」という言葉は馴染みがないかもしれません。ブランドとは、「一流」で「価値」があり、「憧れられ」「愛される」ものであり、ブランドの現在進行形(ing)である「ブランディング」とは、一人でも多くの人たちにYMCAがブランドと認めていただけるようにするためのプロセスだと、この取り組みに協力いただいているグラム株式会社代表取締役山田淳郎社長が仰っています。

YMCAとは何をしている団体???内部だけでなく、外部の方も対象にアンケートを行い、分析し、ブランドコンセプトが発表されました。ブランドを構築していくにあたり3つの段階(フェーズ)を設定し、現在は第2段階に入っております。今後作られていく、「ブランドスローガン」や「ロゴマーク」がよりYMCAらしさを表していくものとなるよう、「ブランドコンセプト」の理解を深める研修会が随時行われております。



灯台 No.9

Light House



総主事 井上真二

「2つの墓石」

横浜市中区山手町にある横浜外国人墓地の正門近くに並び立つ2つの十字架は、元東京YMCA主事ジョン・トランブル・スウィフトさんとイザベル夫人の墓石です。スウィフトさんは1888年、北米YMCA海外派遣主事第一号として来日し、明治学院で島崎藤村等を教え、藤村の「桜の実の熟する時」には夏期学校(日本キリスト教青年会同盟が主催した学生・青年のための実践修養会)と米人教授のことが描かれています。私財を投じて最初の東京YMCA会館を建設し組織化の支援や、日本学生基督教青年会同盟結成を助ける等、永年の教育に尽した功績に対して勲四等瑞宝章、勲三等旭日章が授与されました。1977年からスウィフトさんの命日である8月14日に近い土曜日に墓前礼拝が行われ、この夏、私もその祈りの輪に入れていただきました。この礼拝は故大藤啓矩さん(横浜YMCA職員)らの呼び掛けで始められ、東京、横浜YMCAのスタッフが中心であったようですが、2011年頃からYMCA史学会が呼びかけることによって現在のように参加者が広がったようです。大藤さんは退職後、横浜外国人墓地を愛する会を作って整備を行い、一般開放し、スウィフトさんのお墓を探しに来日したお孫さんと交流を深められた方もあります。大藤さんご自身も墓地内にある日本基督教団本牧教会墓所に眠られ、ぶどうの木の下に墓石には「われらの国籍は天にあり」とありました。

神戸YMCAでは1913年に第1期会館が与えられましたが、北米YMCA派遣主事のヴァーリング・W・ヘルムさんによる会館建設の土地購入の募金活動が契機となっています。日本の各地にまかれた一粒の種が、様々な人々のSPIRITの継承により育まれている事を深く感じた横浜の墓前礼拝でした。

かけがえのないいのちと平和 ~YMCA国際協力募金~



ネパールYMCA保育園

今年も秋から冬にかけてYMCA国際協力募金の強化月間が始まりました。

YMCA国際協力募金は、世界119の国と地域に広がるYMCAのネットワークを通じて、すべての人々が国・民族・宗教の違いを超え、平和にいきいきと暮らすことができる世界を創りだすための国際協力・国際奉仕活動に用いられています。

YMCAでは日々の諸活動をととして、「YMCAの願い」を実現するために、全力を尽くしています。人と人が出会うことで学びあい、互いに理解することで心の成長を目指します。地域で創りあげる活動が、神戸だけでなく世界のYMCAにおいても未来に夢や希望をもち全人的に成長することを目的として「人といのちを育む」活動を展開しています。

私たちは国内外の平和が脅かされていることをテレビや新聞などの報道から、また世界のYMCAネットワークから学びます。貧困、災害、紛争など、困難な生活を強いられる地域の人々ひとりひとりが安心して暮らせる平和な社会をどのようにして創りだすことができるのでしょうか。YMCAはそれぞれの地域で、現地の声に耳を傾け、「本当に必要な活動は何か」を問い続けながら、そこで暮らす人々とともに一緒に考え、ともに協力し支えあう社会を創ります。

神戸YMCA国際協力募金全体として次のような目的のために用いられています。

- 2016年度 募金目標3,300千円
- ◎アジアの農村支援・青少年育成 650千円
- ◎パレスチナ難民への支援 68千円
- ◎海外からの日本語学習者支援 480千円
- ◎国内外の国際分野における指導者育成 1,130千円
- ◎国内外の災害緊急支援 350千円
- ◎日本YMCA同盟拠出金・事務局経費 622千円



パレスチナ東エルサレムYMCA職業訓練校

どうぞ今年もYMCA国際協力募金にご理解とご協力をお願い申し上げます。



留学生街頭募金活動

YMCAの願い

- YMCAでは活動を通して次のことを学びます。
- 「自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること」
- 「家族、地域のひとりとして責任があること」
- 「世界と地球を見つめ、考え、行動すること」
- 「ボランティア精神とリーダーシップを身につけること」
- 「すこやかな心と身体を育むこと」



YMCAでは、これらを実現するために「思いやり」「誠実さ」「尊敬心」「責任感」をすべての場面で大切にしています。

《国際の願い》
YMCAの国際活動は、世界の国と地域に広がるYMCAによる、豊かな出会いを通して、平和をつくりだす人を育てます。そのためには、アジア・太平洋地域の歴史をはじめ、近隣地域のさまざまな問題について学び、行動することを大切にします。

国際・奉仕センター 中道愛子



第22回ネットワークキャンプ



第28回ネットワークキャンプ(教室)

今回、初めてチェンマイYMCAに行かせていただき1984年から行っているタイワークキャンプのキャンパスにも訪れました。第22回のワークキャンプでは2階建ての建物に図書室を開設しましたが、現在では教育のニーズが変わりお寺での作法を勉強する教室へと活用されていきました。第28回のワークキャンプでは、5年前まで障がいをもつ子どもたちの教室がなかった小学校にアジアのユースの手によって教室が建てられました。今では地域から信頼を得て教室を増設する程人数が増えていきました。

タイ・ワークキャンプで建てられた教室が形を変えながら活用されていること。世界YMCA同盟のスタッフからは、若いときに仲良くなった仲間とまた数年後再会してYMCAを盛り上げて欲しいと言われたこと。YMCAの国際プログラムは、参加する前と後では劇的な変化はありませんが、数年後に生きてくるものであることを実感しました。私自身もC.A.のプログラムに参加し、世界YMCA同盟の長い取り組みのスタートラインに立っていることを認識しました。今後も神戸YMCAからユースを様々な地域に送り出しユースがエンパワーされる場を増やしていきたいです。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださり、お支えくださったみなさまに感謝いたします。

「チェンジ・エージェンツ」
世界YMCA同盟が主催しているユース育成プログラムの「チェンジ・エージェンツ」に2年間参加をさせていただきました。今夏も63カ国150名のチェンジ・エージェンツ(以下C.A.)が年に一度集うグローバル・ギャザリングがチェンマイYMCA(タイ)にて開催されました。

私たちは、YMCAを通して社会を変えたいという強い思いを持っていて、それぞれの活動をシェアしたりアドバイスを出し合ったり、社会の課題について理解を深めていきました。また、チェンマイYMCAのネットワークを活かし、農村地でのフィールドワークもありました。都会に住み慣れた私たちにとっては農村地での生活はとても貴重でした。ホームステイでは、久しぶりに全く言葉の通じない環境に置かれ人と人の交わり、親切に心に触れ多くを学ばせていただきました。



チェンジエージェンツ

ファミリーウエルネスセンター	☎078(241)7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078(241)7237
ランゲージセンター	☎078(241)7204
専門学校	☎078(241)7203
西宮YMCA	☎0798(35)5987
三田YMCA	☎079(559)0075
余島野外活動センター	☎0879(62)2241
デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局)	☎078(241)7216
国際奉仕センター	☎078(241)7204
ウエルネスセンター学園都市	☎078(793)7401
西神戸YMCA	☎078(793)7402



Information

YMCAおひさま	☎078(793)9077
西神南YMCA	☎078(993)1560
須磨YMCA	☎078(734)0183
YMCA保育園	☎078(794)3901
西宮YMCA保育園	☎0798(35)5992
西神戸YMCA保育園	☎078(792)1011
神戸学園都市YMCAこども園	☎078(791)2955
YMCAちとせ幼稚園	☎078(732)3542
ちとせ保育ルーム	☎078(732)3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078(997)7705
西宮つとがわYMCA保育園	☎0798(26)1016

YMCAスキーキャンプ&雪あそびキャンプにいこう! ❄️❄️❄️



日本で初めての「キャンプ」は、YMCAが六甲山にて実施したものとされています。1920年7月に六甲山麓で、教育的組織キャンプを行なったのが、日本で最初のキャンプです。YMCAが子どもたちの全人的な成長を願い、キャンプを社会教育プログラムとして取り組み始めて、今年で何と96年目になります。東京オリンピックが実施される2020年には「YMCAキャンプ100年」を迎えます。

この冬、春には、神戸YMCAでは、ウインター・スプリングプログラムとして、スキーキャンプや雪あそびキャンプを実施いたします。日頃的生活環境から飛び出して、自然に触れ、人と交わり、これから育っていく子どもたちが、よりよい生き方をするための土台を身につけることを心より願っております。大学生を中心とする多くのボランティアが子どもたちに寄り添い、キャンプを共にします。冬の厳しい自然に対峙すること、そして初めて挑戦するスキーやお友達やリーダーとの生活は、子どもたちをさらに大きくします。キャンプスタッフ、リーダーで、たくさんのお友達をご参加して下さることを楽しみにしております!



ファミリーウエルネスセンター 2周年記念のイベントを行いました!

2014年にグランドオープンし、あっという間に2年が経ちました。毎年9月はアニバーサリーの月とし、様々なイベントを実施しています。成人の方を対象に、非日常プログラムを体験していただきながらウエルネスを実感していただく「ウエルネスデイズ」。幼少年プログラムメンバーを対象にファミリープログラムで「日帰りハイキング」。地域の方も対象にしたオープンセミナーの「認知症サポーター養成講習会」。ファミリーウエルネスセンターに集う人のこれからの目標を書き集めた「Yの海」など多くのイベントで盛り上がった9月でした。これからもYMCAに集うメンバーはもちろん、地域の人たちと喜びを共にできる施設を目指し、歩んでいきます。



ハイキング



スクウェアステップ



水中動画撮影

第35回神戸YMCAチャリティーゴルフ大会

10月12日の秋晴れの下、チャリティーゴルフが行われました。35回目を迎える今大会は、宝塚クラシックゴルフ倶楽部にて行われ、51名のご参加をいただきました。



当日参加できなかった方からもチャリティー協賛金や物品をいただきました。収益金から諸経費を除いた約26万円は、神戸YMCA青少年指導者養成支援金として、また一部を東日本大震災・熊本地震の復興支援として捧げさせていただきます。次回は2017年5月に千刈カントリー倶楽部を予定しております。

当日参加者と募金をいただいた方々は、以下の通りです。(敬称略)

- 暁 琢也、朝倉 恵美子、井上 真二、岩田 洋子、岩谷 良男、岩本 三好、上野 恭男、大江 彬甫、大田 靖之、大西 弘一、岡野 泰和、岡本 繁、長内 建佑、尾上 尚司、柏原 佳子、桂 幸生、加藤 金行、川中 正浩、北 久華、小林 元一、佐々木 留奈子、芝川 英美子、島田 恒、清水 泰人、上念 賢治、進藤 啓介、鈴木 博和、武内 浩子、武田 寿子、竹増 操、多胡 葉子、坪井 宗孝、東上 武弘、塔本 均、堂本 将司、中尾 英輔、濱 浩一、濱 美智子、広瀬 一雄、福原 吉孝、何 早林、松井 隆介、万本 敬一、村上 純平、矢野 勇治、山口 政紀、山口 洋子、山崎 祐子、山田 容子、山本 克己、山本 常雄、熊谷 郁子、阪根 新、安行 英文、山下 陽子、吉原 尚美

感謝：テント寄贈

一般財団法人日本宝くじ協会から、全国YMCAの行う地域奉仕プログラムのために集会用テント48張、及び青少年教育プログラムのために宿泊用テント70張が寄贈されました。そのうち神戸YMCAには西宮YMCA保育園とファミリーウエルネスセンターの地域活動推進のために集会用テントを、余島活動センターの教育キャンプに宿泊用テントの寄贈を受けました。保育園では、地域の親子連れの活動に早速活用し、新たなコミュニティ形成に寄与することができています。YMCAの活動に深く理解を示した上で協力いただけましたことに深く感謝いたします。



神戸YMCA 創立130年記念 ハンドベルコンサート

10月8日(土)、神戸栄光教会を会場として神戸YMCA130年記念、新会館建築「ハンドベルグループジョイントコンサート」が行われ、240名余りの方々にご入場をいただきました。



この収益は、新会館建築募金に奉げられます。ハンドベルグループの皆様、指揮者の阿部先生、ベルセットをお貸しいただいた啓明学院様、会場をお貸しいただいた神戸栄光教会の皆様にごことより感謝申し上げます。

神戸YMCA高等学院 2016年度 後期入学式



2016年度後期入学式が行われ、新入生を迎えました。期待と不安の入り混じった気持ちで入学式に出席した新入生たち。一人ひとりにとって充実した高校生活となるよう、お祈りしています。一緒に歩んでいきましょう。

第58回神戸市民クリスマス「みんなで祝おうクリスマス」

「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、幼子はイエスと名付けられた。」ルカによる福音書2章20節より

◎日時：2016年12月16日(金)

- ・キャロリング17:00~18:30...街角や教会でクリスマスキャロルを歌います
- ・子どもプログラム17:30~19:30...クリスマスの歌やお話、ペープサートなど
- ・ほっとタイム18:00~19:15...暖かい飲み物とスナックをご用意しています
- ・祈りと祝福のとき19:30~20:30...クリスマスの物語に込められた希望と喜びのメッセージ
- ・青年のつどい20:30~21:30...クリスマスパーティー お菓子や飲み物を囲んで、ゲームなど

◎メイン会場：カトリック 神戸中央教会 ◎入場無料

◎お問い合わせ：神戸市民クリスマス事務局(神戸YMCA内 078-241-7201)



神戸YMCA創立130周年

YMCAセミナー2016

いま、そしてこれからのYMCA
~非常時のYMCAの活動から~

日 時：2016年11月26日(土) 13:30~16:00
(プレセッション 12:45~)

会 場：日本基督教団 神戸教会
参加費：500円

パネリスト：プレセッション 丸目陽子氏(熊本YMCA)
関田寛雄氏(青山学院大学名誉教授)、神保勝己氏(熊本YMCA)、
ジェフリー・メンセンディーク氏(関西学院教員)